

(1) ^{ナンマルン セガ トゥッコ} 낮말은 새가 듣고 ^{반말르넨 타이가 툽스넨다} 밤말은 쥐가 듣는다

昼の話は鳥が聞き、夜の話はねずみが聞く

【意味】 ことばは一度口にすると広がりやすいものだから、口は慎まなければならない。

【用法】 밤말은 쥐가 듣고 낮말은 새가 듣는다のように前半部と後半部の順序を変えて用いることもある。また、낮말은 새가 듣는다か 밤말은 쥐가 듣는다のように前半部あるいは後半部だけでも用いる。

【ポイント】 日本語の「壁に耳あり、障子に目あり」に当たることわざであるが、韓国語では動物の鳥とねずみをたとえに用いている。このことわざを踏まえた쥐도 새도 모르게 (ネズミも鳥もわからないように、誰も知らないうちにこっそり) という慣用表現もある。

【用例1】 엄마: 뭐? 선생님에 대해서 친구랑 그런 말을 했다고? 현빈: 친구가 믿을 만한 애니까 괜찮아요. 엄마: 친구를 못 믿어서 그러는 게 아니야. 낮말은 새가 듣는다고 하잖아. 선생님 귀에 들어가면 어떻게 하려고 그래?

(母「何ですって? 先生のことを友達とそんなふうにしたの?」ヒョン빈「信用できる子だから大丈夫だよ」母「友達が信用できないからじゃないの。昼の話は鳥が聞くっていうじゃない。先生の耳に入ったらどうするのよ」)

【用例2】 가끔은 사람을 헐뜯거나 비난하고 싶을 때도 있지만, 낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는 법이니까 말은 항상 조심해야 한다. (ときには人をけなしたり非難したくなることもあるけど、昼の話は鳥が聞き、夜の話はねずみが聞くものだから、言葉にはいつも注意しなければならない。)

(2) ^{카운 마리카와야 오스말이 곱다} 가는 말이 고와야 오는 말이 곱다

往く言葉が美しくこそ還る言葉が美しい

【意味】 相手にかける言葉が美しければ相手から返る言葉も美しい。

【用法】 今日では字義通りに言葉の問題として解釈し、もののいい方が悪いのを諫めるときに使われることが多い。しかし、元々は行為一般について、自分が他人によくすれば相手も自分によくしてくれることを比喩的に説いたものと思われる。いまでも、相手がよくしてくれたら自分も応じようという文脈で用いられることが稀にある。

【ポイント】 人間関係の核心を衝いたことわざで、はっきりものを言う韓国語のコミュニケーションでは重要な役割をする表現。

【用例1】 영훈: 넌 왜 지호한테 그렇게 무뚝뚝하게 말하냐? 현희: 넌 몰라서 그래. 지호가 먼저 무턱대고 대드는 거야. 가는 말이 고와야 오는 말이 곱지.

(ヨンフン「お前、なんでチホにそんなにつっけんどんにいうんだ?」ヒョニ「何にも知らないくせに。チホの方からむやみに突っかかってくるのよ。往く言葉が美しくこそ還る言葉が美しいのさ」)

【用例2】 가는 말이 고와야 오는 말이 곱다고 상대방에게 말을 건넬 때는 항상 좋은 말로 해야 합니다.

(往く言葉が美しくこそ還る言葉が美しいというように、相手に話かけるときはいつも美しい言葉でいわなければいけません。)